



2019年11月29日

各 位

会 社 名 株式会社 トップカルチャー
 代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄
 (コード番号7640・東証 第1部)
 問合せ先 取締役 管理部長 遠海 武則
 T E L 025-232-0008
<http://www.topculture.co.jp>

通期業績予想の修正並びに特別損失の計上
 及び特別利益の計上に関するお知らせ

当社は、2019年11月29日付の取締役会書面決議に基づき、2019年5月29日に公表いたしました2019年10月期(2018年11月1日～2019年10月31日)の業績予想を下記のとおり修正するとともに、特別損失の計上及び特別利益の計上をすることとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2019年10月期 通期連結業績予想数値の修正(2018年11月1日～2019年10月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	32,272	590	532	328	27.19
今回修正予想(B)	31,185	174	154	135	11.25
増減額(B-A)	△1,086	△416	△378	△192	
増減率(%)	△3.4	△70.5	△71.0	△58.6	
(ご参考)前期実績 (2018年10月期)	32,257	△1,132	△1,199	△1,384	△114.56

2. 2019年10月期 通期個別業績予想数値の修正(2018年11月1日～2019年10月31日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	31,564	528	327	27.10
今回修正予想(B)	30,537	167	150	12.44
増減額(B-A)	△1,027	△361	△177	
増減率(%)	△3.3	△68.4	△54.1	
(ご参考)前期実績 (2018年10月期)	31,482	△1,201	△1,386	△114.76

3. 業績予想修正の理由

当社グループの軸である蔦屋書店事業において、第 2 四半期までは、好調の書籍や特撰雑貨・文具を中心にほぼ計画通りでありました。第 3 四半期以降については新たな販促や店頭における提案力を試み来店客数の増加を図ってまいりましたが、レンタルや販売用 CD・DVD などの主力部門の売上高が想定よりも下回り、書籍や文具特選雑貨の売上高でカバーできず目標未達となりました。

利益面におきましては、レンタル売上高の未達による売上総利益の減少が影響しました。経費面において、運営の見直しや効率化にも努めましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも計画を下回る見込みであります。

4. 特別損失の計上について

2019 年 10 月に発生した台風 19 号により東松山店が浸水被害に遭い、災害損失として 181 百万円を、減損損失は通期で 163 百万円を特別損失に計上する見込みであります。特別損失は合計で 344 百万円計上する見込みであります。

5. 特別利益の計上について

上記 4 に記載の台風被害にともない、受取補償金や支援金など 362 百万円を特別利益に計上する見込みであります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上